一歩踏み出す勇気を

川本 裕子

日本社会でもっと女性が大きな役割を果たすようになれば、公平感が高まり住み心地もよくなり、経済成長にもつながります。過去ほぼ10年ごとの「女性ブーム」で男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法と法制度は整備され、大学進学率も男女ともに半数に達し、学校修了時点で男女の能力差はなくなりました。

しかし、日本企業での女性のキャリアを取り巻く環境はなかなか改善されていません。子育て支援の強化などにより、女性が働き続けられる環境作りは引き続き大きな課題です。一方、政治や経済で意思決定を行うポジションの女性の割合も日本は国際的に見て極めて低く、政府も最近、上場企業に1人以上の女性役員を、と呼びかけています。組織の同質性にこだわるあまり、人材をオープンに活用することを避けてきた日本の組織の文化・スタイルの問題そのものです。

今、世界の企業や組織では、多様性が組織能力を強めることが改めて注目されています。多様性で大きく遅れを取る日本企業も、今後グローバル化の波にますますさらされます。性別や年齢・年次、国籍にこだわらずに人材を採用・育成・登用し、多様な人材にとって魅力的な組織に生まれ変わってこそ、成長が実現できるでしょう。例えば業務評価が曖昧で長時間労働になりがちといった慣行を放置すれば、女性だけでなく誰にとっても合理性が感じられない組織になってしまいます。

問題を「女性の問題」として限定せず、企業全体をどうするかという視点で組織を上げて取り組むことが何よりも重要でしょう。さらに一人ひとりが「一歩前に踏み出す勇気」が大切です。頑張るのは女性個人だけでなく、上司や同僚、パートナーも自分の問題として捉え、おかしいことはおかしいと言い、行動する勇気を持つべきです。

女性が活躍できる社会に向かえるかどうかは、今後日本が伸びていけるかどうかの試金石です。新しい年において、また確実な一歩を踏み出したいものです。

PROFILE

かわもとゆうこ：早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授。東京大学卒、オックスフォード大学経済学修士課程修了。マッキンゼー東京支社・パリ支社等を経て、2004年から現職。これまでに、金融審議会委員、規制改革会議委員等の政府委員を務めてきた。現在、三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役、日本取引所グループ社外取締役など兼務。著書に『川本裕子 親子読書のすすめ』（日経BP社，2010年）など。